

軽米町百人委員会第3回高齢者いきいき部会議事録

○開催日時：平成29年11月28日（火）午後6時30分～午後8時

○開催場所：軽米町農村環境改善センター2階会議室

○出席者 委員：15名中10名出席

事務局：町民生活課 川島

健康福祉課 於本

健康ふれあいセンター 堀米

総務課 梅木

講師：西野 悟（県北教育事務所社教主事）

○あいさつ

（部会長）今回は中間報告のための取りまとめを行いたい。実際、行動に移す時にどのように町などに手伝ってもらえるか、このあたりを西野先生から助言をいただきたいと思います。

（事務局）今回は自分でできること、ともに助け合うこと、公でできることを話し合いました。今回は自分でできることを中心に話し合ったら、少しまとめてなるべく楽しく気分よく進め、西野先生の指導を受けたい。最後に今年度の分を中間報告としてまとめられればと思います。

（講師）私はこの高齢者いきいき部会に入ってよかったと思っています。いろんな場面で「高齢者」という言葉が心に入りました。この間、ある方がこう言っていました。子供たちは不登校やスマホでの友人関係、いじめに関する悩みが多く、今元気なのは高齢者じゃないかと。確かに思うところがあります。元気な人から元気な力をもらうことは健康に長生きするために必要なことです。もう一つ大切なのは「教育」と「今日行く」。これが健康で長生きするために大切なことではないでしょうか。前回話し合った内容の模造紙を見るとそのヒントが出てきます。きのこグループからは「ほら吹き大会」が出ました。これはなんだ、と思いましたが、大きなくくりでは「夢を語る」という分類になりました。これはありだな、楽しそうだなと納得させられました。このように「教育」が大事ですが、趣味をいかしていくことも大事です。学ぶだけじゃなく、楽しむことが重要です。

今、地域と学校の連携が叫ばれていますが、地域の皆さんの得意分野を生かした連携が大事です。

それではもう一度テーマを確認します。「健康で長生きするための地域活動」です。これを考えますと地域活動の手段としては①自助、②共助、③公助のうち、②の共助が中心になると思います。ですから、今回は②共助を中心に考えていきたいと思っています。模造紙の真ん中エリアですね。

目標です。楽しく語り合きましょう。健康で長生きするためには楽しむことと、語り合うことです。「肯定的な受けとめ」「発言の平均化」「柔軟な発想」を大事にしましょう。前回は発言して、書いて、貼って忙しかったのですが、今回はそれを深めてまとめて発表につなげたいと思います。あくまでも中間のまとめ、途中のまとめとしたいと思います。

前回のまとめを模造紙を見て思い出してください。今回は共助に関係が深いもの、地域活動に関係が深いものに赤いシールを張ってください。そして地域活動を自分たちで考えましょう。

【くりグループ】

- (委員1) 共助に関係が深いことは。
- (委員2) 見守り、カーテンが開いているか、電気がついていないか。
- (委員3) 隣近所に出かけているか、連絡がとれるか。
- (委員4) 保健推進員や回覧板配布、最近の様子を何でも話しかける。
- (委員1) 回覧を持っていき、話しかける。
- (委員2) 近所の方をよく知る。
- (委員3) ご近所で仲良くする。
- (委員4) 町内会の行事で話し合い、旅行も1年か2年おきにする。
- (委員1) 野菜のおすそ分けに行く。
- (委員2) お互い助け合う

【ぶどうグループ】

- (委員5) 共助に関係が深いことは。
- (委員6) 畑、田んぼの仕事をみんなです。家族、親せき、お隣さん。
- (委員7) 道路の悪い日は道路の見回りをする。
- (委員6) 健康教室を2、3人のグループでできるようにする。
- (委員5) 物々交換で会話が進む。
- (委員6) 隣りと毎日あいさつをする。
- (委員7) 近所で声をかけ、ラジオ体操を実施する。
- (委員6) 毎朝、ラジオ体操をする。
- (委員5) ボランティア活動で健康いきいき。
- (委員6) 公民館に花を提供する。
- (委員7) 町内会活動で共食、花壇作り。
- (委員5) 話し合って行事の開催と役割分担を決めること。

【きのこグループ】

- (委員8) 共助に関係が深いことは。
- (委員9) 友達と野菜を作る。
- (委員10) 生涯お金を得られる仕事を見つける。
- (委員8) 皆さんと一緒に話をしてほしい。
- (委員9) 地域が良くなるアイデアを出し合う。ほら吹き大会。集落の昔のできごとを語り合う。昔話を子供に聞かせる

(講師) 各グループから発表をお願いします。

- (委員1) くりグループです。大切なことは語り合うことです。そのための課題は、生活スタイルが合うこと。リーダーがないことも課題だ。自分たちでできることは地域の集会所で集まること。ご近所で集うこと。リーダー養成のためにはリーダーの補助になってあげることも大切だ。リーダーの集団を作り、サポーターの存在が

大切だ。

(委員 5) ぶどうグループです。大切なことはそれぞれの行政区や班単位で声掛けをすること。おかずを作ったら時にはとなりに持って行ってあげること。地域づくりにはリーダー養成が必要だ。リーダーがいないことも課題だ。自分たちでできることは、ラジオ体操を毎日やること。それも玄関の外に出て体操をすれば挨拶をかわせる。声掛けもできる。将来へのカギは。三世代家族交流の促進ではないか。そうすれば仕事の量も増える。年齢に合わせた仕事大切だ。孫がいないと元気が出ないものだ。

(委員 8) きこのグループです。夢を語り合う場が必要だ。どんな夢を語ってもいい。高齢者がまきストーブを囲みながら、くし餅を作るように、みんなで集まって作って語り合うことが大切だ。かつては地区ごとに秋には収穫祭とお楽しみ会を兼ねた庭じまいがあった。復活させるのはいいことだ。公民館活動での話し合いが大切だ。そのためには高齢者には交通手段がないので、まずは身近なところから集まることだ。

結婚しない男女が多いのも気になる。たぶんお世話する高齢者が減ったことも要因では。やはり身近に昔話を聞かせる会から始めた方が良い。

(講師) いろいろ出された意見の中からキーワードを黒板に書いてみました。

お茶のみ会もいいけど、人との程よい距離感にも配慮が必要だなと。

かつては地域のコミュニティは近所だけだったが、今は高齢者でもスマホを使うので、ハイキュー仲間のように新たなコミュニティが生まれている。やらされ感も出されていた。それだけ多様な考えがあるということです。

印象的だったのは、「健康で長生き」この部会がテーマだったのに、ほとんどの人がつながりとコミュニティについて話されていたこと。人とのつながりが話し合いの大きな柱になっていたように感じます。

(事務局) これで今回の部会を終了します。今年度はこれで全日程終了です。12月19日か20日に全体会を予定しており、ここで各部会からの中間報告がありますので、部会長さん、発表をよろしくお願いします。